

基準3 教員及び教育支援者等

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到係る状況)

本校の教育目的等については、観点1-1-①で具体的に述べたが、これに沿った教育課程のうち、一般科目では、工学の専門科目を学ぶ基礎となる教科及び社会人としての一般常識や豊かな人間性を育むために必要な教科等の教育を担うべく、教養科の教員として、専任教員24名（資料3-1-①-1。含む寮監）、非常勤講師26名（資料3-1-①-2）を配置している。教員は各自の専門分野に適合した授業科目を担当しているが、教科別の人数の内訳は、資料3-1-①-3のとおりである。

なお、高等専門学校設置基準第6条第2項に規定する一般科目を担当する専任者の数は、5学級を有する場合は22名を下回ってはならないとされているが、上記のとおり同基準を満たしている。

資料3-1-①-1

教養科専任教員一覧表

教 養 科

■ 専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	博士(理学)	待田 芳徳	数学、応用数学(幾何学、数学物理) 数学主任
教授	博士(理学)	勝山 智男	物理、応用物理、地球環境学概論(統計物理学、生物物理学) 教務主事補、E1担任、1年学年主任、物理主任
教授	文学修士	大久保清美	ドイツ語、地球環境学概論(ドイツ地域文化研究) 校長補佐(国際交流・FD担当)、S2担任、ドイツ語主任
教授	文学修士	坂本 信男	国語、文学特論(後期古代語、後期古代文学)
教授	工学修士	西垣 誠一	数学、応用数学(実関数論) 教養科長
教授	理学修士	遠藤 良樹	数学、応用数学(幾何学的測度論) 校長補佐(寮務主事)
教授	教育学修士	塩谷 三徳	英語(英語教授法) 英語主任
教授	体育学修士	佐藤 誠	保健体育(スポーツ運動学、体操競技) C2担任、2年学年代表、体育主任

教授	工学修士	小林 美学	化学、結晶化学、地球環境概論(無機化学) 学生生活支援室長、化学主任
特任教授	文学修士	野澤 正信	哲学、社会と文化、日本事情(インド哲学)
准教授		能登路純子	英語(英文学(ギヤスケル研究))
准教授	博士(学術)	大石加奈子	国語、文学特論(テキスト分析、コミュニケーション科学) 国語主任
准教授		渡邊志保美	保健体育(運動生理学、体育実技) C1担任
准教授	修士(文学)	鈴木 久博	英語(ユダヤ系アメリカ文学) E2担任、英語主任代行
准教授	博士(理学)	住吉 光介	物理、応用物理、現代物理学(宇宙物理学、原子核物理学)
准教授	修士(理学)	佐藤 志保	数学(微分幾何学) D2担任
准教授	修士(文学)	佐藤 崇徳	地理、社会と文化、日本事情(地理学) 寮務主事補、社会主任
准教授	博士(理学)	駒 佳明	物理、応用物理、現代物理学(素粒子物理学) S1担任
准教授	修士(文学)	平田陽一郎	歴史、社会と文化、日本事情(中国史) M2担任
准教授	博士(理学)	鈴木 正樹	数学、応用数学(微分方程式論、可積分系)
講師		福木 洋一	寮監
講師	博士(理学)	松澤 寛	数学、応用数学(非線形偏微分方程式論) D1担任
講師	博士(理学)	澤井 洋	数学(幾何学) M1担任
講師	修士(教育学)	種村 俊介	英語(英語教育学) E1担任

(出典 本校公式ウェブサイト)

教養科非常勤講師一覧表

■非常勤講師

■氏名	■主要な担当教科目	■備考
内山 阿季子	法学	
大久保 敏之	音楽	
大塚 節夫	美術	
神田 朝美	国語	
黒川 幸男	歴史	
小出 貫暎	古典・文学特論	
今野 信男	化学Ⅱ	
杉山 和子	ドイツ語演習・選択外国語(ドイツ語Ⅱ)	
勝呂 譲	総合英語・選択外国語(英語)	
鈴木 静恵	歴史	
鈴木 伸宏	数学B	
関野 恵次	社会と文化	
高澤 啓子	日本語(留学生対象)	
高田 健	総合英語・選択外国語(英語)	
鳥畑 英子	物理・応用物理Ⅰ・工業力学	
成田 智子	総合英語・選択外国語(英語)	
西島 帯刀	化学Ⅱ	
野方 宏	経済学	
廣瀬 豊	物理	
福島 礼子	総合英語・英語W	
牧野 博充	数学B	
水口 好美	数学B	
村上 真理	総合英語・英語W	
吉田 進	生物	
スティーブ・ケレイ・ウェグナー	英語C・選択外国語(英会話)	
マーク・ベンジャミン・コキオ	英語C・選択外国語(英会話)	

(出典 本校公式ウェブサイト)

資料3-1-①-3

教養科専任教員及び非常勤講師の内訳

	国語	外国語	数学	理科	社会	体育	芸術	寮監	合計
教授	1	2	3	2	1	1			10
准教授	1	2	2	2	2	1			10
講師		1	2					1	4
小計	2	5	7	4	3	2		1	24
非常勤	3	8	3	5	5		2		26
合計	5	13	10	9	8	2	2	1	50

※平成23年5月1日現在

(出典 総務課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

一般教育に携わる専任教員の数は、設置基準をやや上回る程度で十分とは言えないが、適切な非常勤講師に依頼することにより、教育目的等を達成するために一般科目としてなすべき教育の実現は可能な配置となっている。また、教養科の定員として寮監を配置しているが、長年にわたり県立高等学校で教職にあった教員を配置しており、「低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う」ことを教育方針の一つに掲げる本校にあって、教科教育のみならず寮での人間教育にも適切に対応している。

以上のように、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員は適切に配置されている。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の専門学科では、学習・教育目標等を達成すべく、専任教員54名、非常勤講師25名の合計79名を配置している。学科ごとの人員配置は、資料3-1-②-1のとおりである。科目別教員配置は、教育課程を踏まえつつ各学科等において審議・決定されており、専任教員は各々の専門分野に応じた授業科目を担当しているが、一部はより適切な教育を学生に提供するため、非常勤講師に依頼している(資料3-1-②-2)。さらに、技術士の資格を持つ専任教員5名のほか、企業での実務経験を持つ専任教員が各学科に複数人配置されており(後出の資料3-1-④-3)、学習・教育目標に掲げる「実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢」等を涵養するにふさわしい教員配置となっている。

なお、高等専門学校設置基準第6条第3項には、教員のうち、専門科目を担当する専任者の数は、当該学校に5の学科を置くときは36人を下つてはならないと定められているが、本校の専門科目担当の専任教員は54名で、同設置基準を満たしている。また、高等専門学校設置基準第8条には、専門科目を担当する専任の教授及び准教授の数は、一般科目を担当する専任教員数と専門科目を担当する専任教員数との合計数の二分の一を下つてはならないと規定されているが、本校では、一般科目を担当する専任教員24名、専門科目を担当する専任教員54名の計78名に対して、専門科目を担当する教授及び准教授の数は41名であり、やはり設置基準を満たしている。

資料3-1-②-1

専門科目担当専任教員配置表

	教授	准教授	講師	助教	計	非常勤講師
機械工学科	4	5	1	1	11	4
電気電子工学科	5	3	1	1	10	7
電子制御工学科	5	2	2	2	11	5
制御情報工学科	6	3	1	1	11	4
物質工学科	5	3	2	1	11	5
計	25	16	7	6	54	25

※平成23年5月1日現在

※校長除く。総合情報センター・地域共同テクノセンターに専任教員各1名を配置。(出典 総務課作成資料)

資料3-1-②-2

専門学科専任教員・非常勤講師一覧表

機械工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	工学博士	手塚 重久	水力学、機械設計法(流体力学)
教授	博士(工学)	西田 友久	材料力学、トライボロジー、機械設計製図(材料力学) M3担任、技術室長
教授	博士(工学) 技術士(機械部門)	小林 隆志	弾性力学、数値解析、機械工作法(設計工学、圧力技術) 機械工学科長、実習工場長
教授	工学博士	村松 久巳	情報工学、振動工学(流体工学、音響工学) 教務主事補
准教授		宮内 太積	機械設計製図、工業力学(機械力学) M2副担任
准教授	工学修士	井上 聡	金属材料学、機械設計製図(合金設計) 学生主事補
准教授	博士(工学)	三谷祐一朗	プログラム演習、自動制御(制御工学) M5担任
准教授	修士(工学) 技術士(機械部門)	山中 仁	機構学、電子計算機、工学倫理、機械設計製図、機械工学実験、 機械工作実習、工業外国語(設計工学)
准教授	博士(工学)	新富 雅仁	伝熱工学、熱力学、機械設計製図(燃焼工学)
講師	修士(工学)	永禮 哲生	機械工作法、機械設計製図、機械工学実験(切削工学) M4担任

助教	博士(工学)	松田 伸也	材料強度論、機械設計製図、機械工学実験、機械工作実習、 機械工学演習(材料力学、破壊力学)
			M1副担任

■非常勤講師

■氏名	■主要な担当教科目	■備考
相磯 勝宜	設計製図	
井下 芳雄	メカトロニクス	
大賀 喬一	塑性力学	
大場 康正	電子工学	

電気電子工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	工学修士	高橋 儀男	回路網理論、電気電子計測、自動制御、電子回路設計(電気機器)
教授	工学修士	江間 敏	電力工学、パワーエレクトロニクス、電磁気学Ⅰ(電力工学) 図書館長、E2副担任
教授	博士(工学)	佐藤 憲史	通信工学、マイクロ波工学、電磁気学Ⅱ、 工業英語Ⅰ(光エレクトロニクス) E5担任、5年学年代表
教授	博士(工学)	望月 孔二	電子回路、電気電子材料、 CAD&回路シミュレーション演習(電子回路) 電気電子工学科長
教授	博士(工学)	高野 明夫	電気電子機器、工業英語Ⅰ、 制御工学(パワーエレクトロニクス、電動機制御) 教務主事補
准教授	博士(工学)	野毛 悟	直流回路、回路理論Ⅰ、 コンピュータ工学(超音波エレクトロニクス、電子材料) E4担任、4年学年代表
准教授	博士(工学)	西村 賢治	エネルギー変換工学、回路理論Ⅱ(プラズマ工学) 寮務主事補、E1副担任
准教授	博士(工学)	嶋 直樹	電磁気学、プログラミング、エレクトロニクスセミナー、 工業英語Ⅰ(電波物理)
講師	修士(工学)	真鍋 保彦	ロジック回路、回路理論ⅢⅡ、デジタル信号処理(ウェブ情報システム) E3担任

助教	博士(工学)	高矢 昌紀	電子回路 I (色彩画像工学)
----	--------	-----------------------	-----------------

■非常勤講師

■氏名	■主要な担当教科目	■備考
坂井 晃	新エネルギー工学	
園田 光寛	新エネルギー工学	
大久保 章英	図学・製図	
江間 義則	固体電子工学	
佐藤 真一	情報理論	
戸張 晴巨	電気法規	
松坂 孝	工業英語 II	

電子制御工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分)	■校務担当
教授	工学博士	舟田 敏雄	工学数理、計算流体力学(数理工学)	D3担任
教授	工学修士	長澤 正氏	計算機工学、線形回路解析、通信工学(通信工学)	D5担任
教授	博士(理学)	牛丸 真司	システム制御工学、組み込みソフトウェア、 電子機械設計製作(組み込みシステム)	総合情報センター長
教授	工学修士	川上 誠	電気回路、電子回路、ロボット工学演習(画像処理、電子回路)	電子制御工学科長
教授	博士(工学)	遠山 和之	計算機基礎、回路理論、電磁気学、電子材料(誘電、絶縁材料)	校長補佐(専攻科長)
准教授	博士(工学)	鄭 萬溶	工学数理、工業英語、プログラミング言語 Java I、Java II、品質工学	学生主事補
准教授	博士(工学)	大庭 勝久	計算流体力学、工業熱力学、工業力学(流体工学)	
講師	博士(工学)	江上 親宏	制御工学、工学数理演習、UNIX 入門(関数微分方程式)	D4担任
講師	博士(情報科学)	出川 智啓	C言語基礎演習、工業英語、 工業熱力学(数値流体力学、高性能数値計算)	D3副担任

助教	博士(工学)	大沼 巧	回路理論、電子制御工学実験(電動機制御) D1副担任
助教	修士(工学)	青木 悠祐	計算機基礎、電気・機械製図、 電子機械設計・製作(ロボット工学・生体医工学) D2副担任

■非常勤講師

■氏名	■ 要な担当教科目	■備考
浅井 登	人工知能	
勝呂 元美	計算機工学Ⅱ	
三谷 哲也	計測工学	
松坂 孝	計測工学、 電磁気学Ⅱ	
森井 宜治	工学技術セミナー	

制御情報工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■ 要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	工学修士 技術士(機械部門)	相良 誠	振動学、加工学、工業英語(工作機械、機械設計、精密加工) 副地域共同テクノセンター長
教授	工学博士	大島 茂	設計工学(水圧・油圧工学) 副校長(教務主事)
教授	工学修士 技術士(機械部門)	吉野龍太郎	ロボット工学、自動制御、メカトロニクス(ロボット工学) S5担任
教授	工学博士	長谷 賢治	制御工学、システム工学(制御工学) 制御情報工学科長
教授	博士(情報工学)	藤尾三紀夫	図形処理、情報処理、メカトロニクス演習Ⅱ(CG・CAD/CAM) 地域共同テクノセンター長
教授	理学博士	市川 周一	プログラミング演習Ⅰ、オペレーティングシステム、 計算機システム(計算機科学)
准教授	工学修士	鈴木 茂樹	電子計算機、計算機シミュレーション、 プログラミング演習Ⅲ(信号処理) 学生主事補
准教授	博士(工学)	芹澤 弘秀	電気回路、電磁気学、メカトロニクス演習Ⅰ(電磁波工学) S3担任・3年生学年代表

准教授	博士(情報科学)	鈴木 康人	ソフトウェア工学、離散学、プログラミング演習Ⅱ(情報論理) S4担任
講師	博士(工学)	大久保進也	電子回路、計測工学、メカトロニクス演習Ⅲ(光情報工学) S1副担任
助教	博士(工学)	松本 祐子	流体力学、工学実験、メカトロニクス演習Ⅱ(数値流体力学) S2副担任

■非常勤講師

■氏名	■主要な担当教科目	■備考
浅井 登	人工知能	
丸 雅光	ソフトウェア工学	
鞠子 誠	システム工学	
本間 周平	材料工学	

物質工学科

■専任教員

■職名	■学位	■氏名	■主要な担当教科目(専門分野) ■校務担当
教授	博士(工学)	押川 達夫	有機化学Ⅰ-Ⅲ(有機合成化学、グリーンケミストリー) 校長補佐(学際教育担当)
教授	博士(工学)	蓮實 文彦	生物化学、微生物学、培養工学、 微生物学実験(応用微生物学・酵素化学) 校長補佐(学生主事)
教授	薬学博士	芳野 恭士	分子生物学、細胞工学、生物工学実験(生物化学・生物系薬学) 物質工学科長
教授	博士(薬学)	後藤 孝信	生物化学Ⅰ、酸素工学、生物化学実験(水産化学) C1副担任
特任教 授	博士(工学) 技術士(衛生工学部門)	渡辺 敦雄	化学工学、安全工学、環境工学(化学工学、安全工学)
准教授	博士(工学)	稲津 晃司	物理化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、物理化学実験(触媒化学、環境化学) 副地域共同テクノセンター長、C3担任
准教授	博士(理学)	大川 政志	無機化学、無機化学実験(無機化学)
准教授	博士(工学)	竹口 昌之	反応化学、基礎化学工学、 化学工学実験(生物化学工学、微生物工学、生物無機化学) C5担任

講師	博士(農学)	古川 一実	生物化学Ⅰ・Ⅱ、遺伝子工学、生物工学実験(遺伝子工学) C4担任
講師	博士(工学)	藁科 知之	分析化学、分析化学実験、機器分析Ⅰ(分析化学) C2副担任
助教	博士(学術)	山根 説子	有機化学、有機材料化学、機器分析化学Ⅱ、 材料化学概論(生体機能性高分子材料化学)
■非常勤講師			
氏名	主要な担当教科目	備考	
当摩 建	無機材料化学		
寺崎 正紀	機器分析Ⅱ		
島田 征人	品質管理		
平林 鈺冶	電気電子工学基礎		
勝又 勝利	物質工学入門		

(出典 本校公式ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

各学科の専門科目担当教員は、各々の専門分野に応じた授業科目を担当し、一部の科目については、より適切な教育を学生に提供するため、非常勤講師に依頼している。また、学科によっては技術士の資格を持つ専任教員が配置されているほか、企業での実務経験を有する教員が各学科に複数人配置されるなど、高等専門学校設置基準の人数を満たしつつ、学習・教育目標等を達成するに十分な体制となっている。

以上のように、教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員は適切に配置されている。

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の専攻科には、機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻の3専攻が設置されている。これらの専攻は、本科4・5学年次とともに単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学プログラム」(2004年度より日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定済み)を構成しており、教育目標及びこれを理解し実践するための実践指針((A-1)～(E-4)までの全18項目)が定められている(基準1の資料1-1-①-3, 4を参照)。

専攻科担当教員の資格は、「プログラム担当教員の資格」に規定されており(資料3-1-③-1)、現在55名の専任教員と2名の非常勤教員が配置されている。各教員の担当授業科目と専門分野等は、資料3-1-③-2に示すとおりであり、専攻科の教育目標を達成すべく、担当授業科目と教員の専門分野とを適合させつつ、バランスよく教員を配置している。

なお、専攻科担当教員は、全員が大学評価・学位授与機構による5年ごとの審査で承認された者

である。このうち、博士の学位を有するものは40名(内、非常勤講師1名)であり、5名の技術士がいるほか(同前)、情報処理技術者・臨床検査技師・薬剤師・特定化学物質等作業主任者といった各種の技術資格を有する教員もいる。また、民間企業における技術者としての経験を有する教員は14名(内、非常勤講師1名を含む6名は経験10年以上)である。

資料3-1-③-1

沼津工業高等専門学校における「総合システム工学プログラム」の プログラム担当教員及びプログラム担当教員会議について

(プログラム教科目)

1. 沼津工業高等専門学校(以下「本校」という。)における「総合システム工学プログラム」(以下「プログラム」という。)のプログラム教科目は、本校の第4学年及び第5学年の主要教科目並びに専攻科の教科目とする。

(プログラム担当教員の資格)

2. プログラム担当教員の資格は、当該年度に開設するプログラム教科目を担当する専任の教員とし、当該教員は、別に定める教員個人調書を校長に提出するものとする。

(プログラム担当教員会議の設置)

3. 本校に、プログラムの企画・運営を円滑に進めるため、プログラム担当教員会議(以下「会議」という。)を置く。
4. 会議は、原則として年4回開催するものとし、プログラムの企画・運営に関する基本方針について審議する。
5. 会議は、プログラム担当教員で構成する。
6. 会議に議長を置き、構成員のうちから校長が指名する。
7. 会議は、3分の2以上の構成員が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。
8. 会議の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
9. 各学科会議、教養科会議及び専攻科担当教員会議(以下「学科会議等」という。)は、第4項の会議において合意された事項のうち、その実施に当たって更に検討を要する場合は、学科会議等において審議の上、実施するものとする。この場合において、第4学年及び第5学年に関わる事項に関して各学科間、及び教養科間の調整及び詳細な合意を必要とする事項については、教務委員会において審議の上、実施するものとする。

(プログラム委員会)

10. 会議に、当該会議の円滑な運営を図るため、プログラム委員会(以下「委員会」という。)を置く。
11. 委員会は、会議から付託された事項について審議し、会議に報告するものとする。
12. 委員会は、原則として専攻科企画・運営委員会が兼任するものとし、その下にワーキンググループとして第1～7委員会を置くものとする。

(細目)

13. この取扱いのほか、会議の運営に関し必要な細目は、会議が別に定める。

2004年度第7回総務委員会確認

2004年11月10日

2006年12月13日

(出典 本校公式ウェブサイト)

専攻科授業科目及び担当教員一覧

	授業科目	単位数	職名	氏名	学位	専門分野	
語学	技術英語 I	1	非常勤	松坂 孝	工学士・ 技術士(機械部門)	熱工学	
	技術英語 II	1					
	英作文 I	1	講師	種村 俊介	修士(英語教育学)	英語教授法	
	英作文 II	1					
	英会話 I	1	教授	塩谷 三徳	教育学修士	英語教授法	
	英会話 II	1					
	総合ドイツ語 I	1	教授	大久保 清美	文学修士	ドイツ地域文化研究	
	総合ドイツ語 II	1					
人文社会科学	歴史文化論	2	准教授	平田 陽一郎	修士(文学)	中国史	
	地球環境学	2	教授	芳野 恭士	薬学博士	生物化学・生物系薬学・食品化学	
	工学倫理	2	准教授	山中 仁	修士(工学)・ 技術士(機械部門)	設計工学・機構学	
	エネルギーと社会	2	非常勤	森井 宜治	工学博士	応用物理	
	地理情報学	2	准教授	佐藤 崇徳	修士(文学)	地理学	
基礎能力	現代物理学	2	准教授	駒 佳明	博士(理学)	クォーク・ハドロン物理学	
	量子力学	2	教授	勝山 智男	博士(理学)	統計物理学・生物物理学	
	熱統計物理学	2					
	応用数学 I	2	講師	松澤 寛	博士(理学)	非線形偏微分方程式論	
	応用数学 II	2					
	応用数学 III	2	講師	澤井 洋	博士(理学)	微分幾何	
	マルチメディア・ネットワーク	2					
	化学データ解析	2	教授	舟田 敏雄	工学博士	数理工学	
	材料強度論	2					
	結晶化学	2	教授	芳野 恭士	薬学博士	生物化学・生物系薬学・食品化学	
	生物化学工学	2					
	機械工学系科目	流体力学	2	講師	藁科 知之	博士(工学)	分析化学
		精密加工学	2	教授	西田 友久	博士(工学)	材料力学
		燃焼工学	2	助教	松田 伸也	博士(工学)	材料力学・破壊力学
		ロボット制御工学	2	教授	小林 美学	工学修士	無機化学
システム制御工学		2	准教授	竹口 昌之	博士(工学)	生物化学工学・微生物工学・生物無機化学	
振動制御工学		2	教授	手塚 重久	工学博士	流体力学	
適応制御工学		2	教授	小林 隆志	博士(工学)・ 技術士(機械部門)	弾性力学・圧力技術	
流体エネルギー変換工学		2	講師	永禮 哲生	修士(工学)	切削工学	
音響工学		2	准教授	新富 雅仁	博士(工学)	燃焼工学	
表面工学		2	教授	川上 誠	工学修士	画像処理・電子回路	
工業材料		2	助教	青木 悠祐	修士(工学)	ロボット工学・生体医工学	
			教授	長谷 賢治	工学博士	制御工学	
			教授	相良 誠	工学修士・ 技術士(機械部門)	工作機械・機械設計・振動工学	
			准教授	三谷 祐一朗	博士(工学)	制御工学	
			教授	大島 茂	工学博士	水圧・油圧工学	
		教授	村松 久巳	工学博士	流体工学・音響工学		
		教授	西田 友久	博士(工学)	材料力学		
		准教授	井上 聡	工学修士	合金設計		

電気電子工学科 科目目	電気機器学特論	2	教授	高野 明夫	博士 (工学)	パワーエレクトロニクス・電動機制御
	パワーエレクトロニクス特論	2	教授	江間 敏	工学修士	電力工学
	電力制御機器工学	2	教授	高野 明夫	博士 (工学)	パワーエレクトロニクス・電動機制御
	電磁エネルギー変換工学	2	准教授	西村 賢治	博士 (工学)	プラズマ工学
	集積回路設計	2	教授	望月 孔二	博士 (工学)	電子計測
	電磁波工学 I	2	准教授	嶋 直樹	博士 (工学)	電波物理
	電磁波工学 II	2	准教授	芹澤 弘秀	博士 (工学)	電磁波工学
	電子デバイス	2	准教授	野毛 悟	博士 (工学)	超音波エレクトロニクス
	電気電子材料	2	教授	遠山 和之	博士 (工学)	誘電・絶縁材料
	信号処理	2	准教授	鈴木 茂樹	工学修士	信号処理
情報工学科 科目目	ネットワーク	2	教授	長澤 正氏	工学修士	通信工学
	計算機アーキテクチャー	2	教授	川上 誠	工学修士	画像処理・電子回路
	組み込みソフトウェア	2	教授	望月 孔二	博士 (工学)	電子計測
	アルゴリズムとデータ構造	2	助教	高矢 昌紀	博士 (工学)	色彩画像工学
	有限オートマトンと言語理論	2	教授	牛丸 真司	博士 (理学)	組み込みシステム
	プログラム言語	2	講師	真鍋 保彦	修士 (工学)	情報処理
	計算機システム	2	准教授	鈴木 康人	博士 (情報科学)	情報論理
	オブジェクト指向プログラム設計	2	教授	藤尾 三紀夫	博士 (情報工学)	CG・CAD/CAM・メカトロニクス
	画像処理工学	2	教授	市川 周一	理学博士	計算機学・計算機アーキテクチャ・並列処理
	化学情報学	2	准教授	鄭 萬溶	博士 (工学)	振動工学
化学・生物工学科 科目目	計算力学	2	教授	川上 誠	工学修士	画像処理・電子回路
	計算流体力学	2	教授	芳野 恭士	薬学博士	生物化学・生物系薬学・食品化学
	有機材料設計	2	教授	小林 隆志	博士 (工学)	弾性力学・圧力技術
	環境安全工学	2	教授	舟田 敏雄	工学博士	数理工学
	有機化学	2	准教授	大庭 勝久	博士 (工学)	流体力学
	微生物工学	2	教授	押川 達夫	工学博士	グリーンケミストリー
	食品保存工学	2	教授	渡辺 敦雄	博士 (工学)・ 技術士 (衛生工学部門)	化学工学・安全工学
	生物生産工学	2	教授	押川 達夫	工学博士	グリーンケミストリー
	材料物理化学	2	助教	山根 説子	博士 (学術)	生体機能性高分子材料化学
	反応速度論	2	教授	蓮實 文彦	博士 (工学)	応用微生物学・酵素化学
授業科目合計単位数		144	教授	後藤 孝信	博士 (薬学)	水産化学
			講師	古川 一実	博士 (農学)	植物遺伝育種学・植物組織培養学・遺伝子工学
			准教授	稲津 晃司	博士 (工学)	触媒化学・環境化学
			准教授	大川 政志	博士 (理学)	無機化学

※平成23年5月1日現在

(出典 学生課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校で専攻科の授業を担当する教員は、博士の学位を有する講師以上の常勤教員が主体であり、全員が大学評価・学位授与機構による5年ごとの審査で承認された者である。教員は各自の専門分野に応じた授業科目を担当しているほか、技術士をはじめとする各種の技術資格や、豊かな企業経験を有する教員が多く配置されている。

以上のように、本校専攻科においては、教育の目的を達成するために必要な専攻科担当教員が適切に配置されている。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

本校の教員採用は公募制であり、教員選考内規に基づき教員選考委員会で選考しているが、当該学科内外の各教員の経歴や年齢構成等を踏まえ、偏りのない適切な人材配置となるよう十分に配慮されている。その結果、教員の年齢構成一覧(資料3-1-④-1, 2)・経歴一覧(資料3-1-④-3)に見るとおり、多様な背景を持つ教員組織であると同時に、おおむねバランスの取れた構成となっている。

また、博士の学位や技術士等の職業上の高度な資格についても、本校教員の取得状況は高レベルであり、専門科目(理系の一般科目を含む)を担当する教員66名のうち、約80%を占める53名がこれらの資格を取得している(資料3-1-④-4)。この数値は、国立高等専門学校機構第2期中期計画における目標の70%を上回っており、高等専門学校にふさわしい高度な専門教育が可能となっている。なお、本校には現在7名の女性専任教員がいるが、女性教員の働きやすい職場環境を整えるため、後述するように校長がヒアリングを行い、女性教員は、寮宿直に替えて寮地区の巡回を実施することとし、育児休暇取得の勧奨とそれに対する人的対応(非常勤の採用など)も講ずるなど、具体的に配慮している(資料3-1-④-5)。その他、外部研修へも積極的に参加し、教員の資質向上に努めている(資料3-1-④-6)。

さらに、平成21年度から、校長は校長リーダーシップ経費(資料3-1-④-7)の申請者全員に対して申請書に基づくヒアリングを行い、教育の質の向上を目指すもの、研究成果を科学研究費補助金等の外部資金獲得に繋げるもの、教育環境を改善しようとするものになっているかを見極めて採択を決定し、次年度に採択者の実績報告を義務付けている。なお、科学研究費補助金の申請者に運営費交付金を追加配分すること(資料3-1-④-8)、豊橋・長岡技術科学大学が公募する共同研究への申請を奨励することによる教員の研究活動の活性化に努めている(資料3-1-④-9)。

高専機構の在外研究員制度、高専・技術科学大学間教員交流制度、内地研究員制度の活用を奨励して教員の研究活動、教育活動の活性化に努めている(資料3-1-④-10)。

平成21年度に校長が全教員とヒアリングを行い、教員組織を活性化するための具体策について各教員と話し合い信頼関係の構築に努めている。校長ヒアリングは平成23年度以後も定期的実施する予定である。

資料3-1-④-1

専任教員の年齢構成及び女性教員数

	教養科	機械工学科	電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科	物質工学科	総合情報センター	計
60-65歳	3	1	2	1	2	1		10
50-59歳	7	5	3	3	2	3		23
40-49歳	7	4	4	3	5	4		27
30-39歳	7		1	3	2	3	1	17
28-29歳		1		1				2
計	24(4)	11	10	11	11(1)	11(2)	1	79(7)

※年齢は平成23年度末における年齢

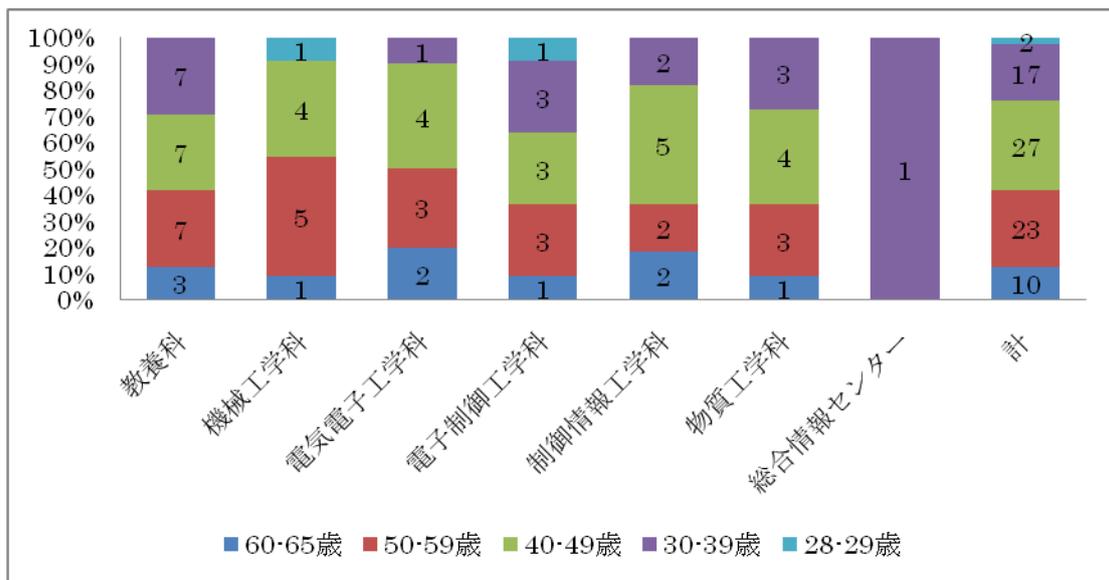
※校長及び地域共同テクノセンターの専任教員1名は表に加えていない。

※計の()内は女性教員数で内数

(出典 総務課作成資料)

資料3-1-④-2

専任教員の年齢構成グラフ



※平成23年5月1日現在

(出典 総務課作成資料)

本校以外の勤務歴

職名	現員	本校以外の勤務歴がある教員									複数経歴内 訳
		他高専	大学	高校以下	官公庁	民間企業	自営業	海外研究	延べ 人数	実人 数	
教授	35人	3人	5人	1人	1人	16人		1人	27人	25人	大学・民間 企業2名
准教授	26人	2人	7人	3人		5人		1人	18人	15人	他高専・民間 企業1名 高校・民間 企業1名 大学・海外 研究1名
講師	12人	1人	3人	2人				1人	7人	6人	大学・海外 研究1名
助教	6人		1人			2人			3人	2人	大学・民間 企業1名
合計	79人	6人	16人	6人	1人	23人	0人	3人	55人	48人	

※平成23年5月1日現在

※校長及び地域共同テクノセンターの専任教員1名は表に加えていない。

(出典 総務課作成資料)

資料3-1-④-4

博士の学位・技術士取得者数

	現員	教養科	機械工学科		電気電子工学科	電子制御工学科	制御情報工学科		物質工学科		総合情報センター	計	
			博士	技術士	博士	博士	博士	技術士	博士	技術士	博士	博士	技術士
教授	35	3	4	(1)	3	3	4	2	5	(1)		22	2(2)
准教授	26	4	2	1	3	2	2		3			14	1
講師	12	2				2	1		2		1	10	
助教	6		1		1	1	1		1			5	
合計	79	9	7	1(1)	7	8	8	2	11	(1)	1	51	3(2)

※平成23年5月1日現在

※（ ）は博士の学位取得者で技術士の資格を有する者

※校長及び地域共同テクノセンターの専任教員1名は表に加えていない。

※教養科の9名中1名は国語担当教員

(出典 総務課作成資料)

資料3-1-④-5

育児休業取得状況(教員)

育児休業取得者	所属・職名 (取得時)	担当授業	取得期間	育児休業取得前の 担当授業時間数	対応方法
渡邊志保美	教養科・助教	保健体育	H19.1.7~H19.9.30	14	育児休業取得前の担当授業の全てを非常勤講師で対応
佐藤 志保	教養科・准教授	数学	H21.1.13~H22.12.31	16	育児休業取得前の担当授業の全てを非常勤講師で対応

※平成23年5月1日現在まで

(出典 総務課作成資料)

平成22年度外部研修一覧表

研修会名称	主催者	開始日時（期間）	参加者
		開始日～終了日	
平成 22 年度 独立行政法人国立高等専門学校機構 高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）	高専機構本部	H22. 8. 30～H22. 9. 1	2 名
平成 22 年度 独立行政法人国立高等専門学校機構 高等専門学校教員研修（管理職研修）	高専機構本部	H22. 9. 29～H22. 10. 1	1 名
第 7 回 全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	高専機構本部	H23. 1. 27～H23. 1. 28	2 名
留学生・国際交流担当者研究集会	高専機構本部	H22. 7. 9～H22. 7. 10	1 名
平成 22 年度 全国学生指導担当教職員研修会	（独）日本学生支援機構	H22. 11. 25～H22. 11. 26	1 名
平成 22 年度 障害学生修学支援事例研究会	（独）日本学生支援機構	H22. 8. 30～H22. 8. 30	1 名
平成 22 年度 東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会	（独）日本学生支援機構	H22. 9. 9～H22. 9. 10	2 名
平成 22 年度 学生相談インテーカーセミナー	（独）日本学生支援機構	H22. 12. 17～H22. 12. 17	1 名
留学生交流研究協議会	（独）日本学生支援機構	H22. 7. 8～H22. 7. 9	1 名
第 48 回 全国学生相談研修会	日本学生相談学会	H22. 11. 28～H22. 11. 30	3 名
第 36 回 学校保健セミナー	（財）静岡県予防医学協会	H23. 3. 3～H23. 3. 3	1 名
「工学（融合複合・新領域）関連分野」審査講習会	（社）日本工学教育協会	H22. 6. 16～H22. 6. 16	1 名
有機溶剤作業主任者技能講習	（社）静岡県労働基準協会 連合会	H22. 6. 14～H22. 6. 25	2 名
安全管理者選任時研修	（社）静岡県労働基準協会 連合会	H22. 11. 24～H22. 11. 25	1 名

(出典 総務課作成資料)

校長リーダーシップ経費募集要項

平成23年4月25日

教職員各位

校長

平成23年度校長リーダーシップ経費の申請について（照会）

このことについて、今年度の配分を希望する場合は、下記により申請書等を提出願います。

なお、設備整備（教育研究機器（備品）の更新・新規）のみの要求については、別添の学内マスタープランにて申請をお願いします。

また、平成22年度の採択者は、実施成果報告書（様式3）を4月末日までに提出いただくよう併せてお願いします。

記

1. 申請方法

①申請者（グループの場合は代表者）は、申請書（様式1）を作成の上、電子媒体にて各所属長に提出する。

なお、複数学科にまたがる申請の場合は、主たる教員の所属長に提出する。

②各所属長は、学科等の順位一覧（様式2）を作成し、申請書と併せて財務係へ電子媒体で提出する。

2. 提出期限 平成23年 5月20日（金）

3. 提出先 e-mail:

4. その他

関連資料及び申請書様式は、学内HPよりダウンロードしてください。

財務経理 → 予算執行 http://fportal.numazu-ct.ac.jp/?page_id=206

(1) 校長リーダーシップ経費関連資料

● 校長リーダーシップ経費の配分について（配分基準等）

(2) 申請書等様式ダウンロード

● 校長リーダーシップ経費の申請書及び報告書

様式1) 校長リーダーシップ経費配分申請書

様式2) 校長リーダーシップ経費に関する学科等の順位一覧

様式3) 平成23年度実施成果報告書 ⇒ 被採択者は翌年4月末日までに報告

(出典 総務課作成資料)

科学研究費補助金の申請者への運営費交付金追加配分資料

平成22年度教育研究経費の留保分(科研費分)にかかる再配分一覧

単位：千円

新規	研究種目	研究課題名	研究室	氏名	配分類
新規	基礎研究(C) (一般)	量産可能な工学教育支援システムとしての小型磁気浮上装置の開発	機械		
新規	基礎研究(C) (一般)	非石綿ガスケットの高温特性評価とフランジ締結体の寿命予測	機械		
新規	若手研究(B)	航空機用セラミックス軸受球の変動荷重に対する圧強強度評価法の確立	機械		
新規	若手研究(B)	二ホウ化マグネシウムの燃焼合成における最適条件マップの作成	機械		
新規	若手研究(B)	パラレルリンク機構の公差設計に関する研究	機械		
継続	基礎研究(C) (一般)	微分方程式と幾何構造の関係に関するツイスター理論による解明	教養		
継続	基礎研究(C) (一般)	多次元ニュートリノ放射線体計算コードによる超新星爆発メカニズムの研究	教養		
新規	基礎研究(C) (一般)	Modelによる教材作成のための工業高等学校の英語教育についての基礎調査	教養		
新規	挑戦的萌芽研究	動感反転作用を用いた運動技術指導法の構築	教養		
新規	若手研究(B)	中国北朝後期における褊褊政策と府兵制の展開	教養		
新規	若手研究(B)	コンパクト可解多様体の幾何	教養		
新規	若手研究(B)	空間非斉次性をもつ双安定反応拡散方程式系の局在パターンダイナミクスに関する研究	教養		
新規	若手研究(B)	格子QCDと有効場の理論に基づく重いクォークoniumの研究	教養		
継続	基礎研究(C) (一般)	予測補正制御に基づく高速高精度加工システムの試作	制御情報		
新規	基礎研究(C) (一般)	スパイク放電型神経ネットワークモデルによるブラッド給視現象の理論的解明	制御情報		
新規	基礎研究(C) (一般)	エッジ特性を考慮した高精度三次元電磁波解析法の開発	制御情報		
新規	若手研究(B)	双極子を用いた非圧縮性流れのラグランジュ的解析手法構築に向けた研究	制御情報		
新規	若手研究(B)	複屈折暗視野光学顕微鏡の開発とその生体試料観察への応用	制御情報		
継続	若手研究(B)	鏡の詳細なメカニズムの大規模最適化問題への応用と教育利用	総合情報セン		
継続	基礎研究(C) (一般)	下地基板の制約を軽減した酸化物結晶薄膜形成技術の研究開発	電気電子		
新規	基礎研究(C) (一般)	静止系におけるローレンツ力の検証	電気電子		
新規	基礎研究(C) (一般)	アナログ回路技術開発を題材にしたコンテスト形式のPBLのための課題作成	電気電子		
新規	基礎研究(C) (一般)	極ゼロ相殺法に基づくブラシレスDCモータのセルフチューニング制御	電気電子		
新規	若手研究(B)	多原色表示装置における消費電力低減に関する研究	電気電子		
継続	若手研究(B)	非線形結合振動子系の引き込み現象と時間遅れの影響に関する研究	電子制御		
新規	基礎研究(B) (一般)	高分子フィルムの交流高電界下での局所発熱・電界発光・損失電流の同時観測法の検討	電子制御		
新規	基礎研究(C) (一般)	剛体ブロック型構造物の安定条件の統計的評価	電子制御		
新規	基礎研究(C) (一般)	粘性ポテンシャル流解析法による複合流体境界面の非線形安定性解析	電子制御		
新規	若手研究(B)	マルチメディカルロボットシステムの構築	電子制御		
新規	若手研究(B)	強安定成層流中の乱流生成機構に及ぼす成層効果の解明	電子制御		
新規	基礎研究(C) (一般)	疎水空間を有する親水性ハイブリッドナノチューブの開発	物質		
新規	基礎研究(C) (一般)	魚類のタウリン生合成に関与した酵素の精製とその遺伝子のクローニング	物質		
新規	基礎研究(C) (一般)	メタン酸化細菌共生系を利用した低濃度メタンの固定化技術の開発	物質		
新規	挑戦的萌芽研究	人間力養成メソッドの開発のための生理的および物理的人間力測定方法に関する研究	物質		
新規	若手研究(B)	近赤外光活性金属錯体の光線力学療法用光増感色素への応用	物質		
新規	若手研究(B)	ナノアパタイトの形成に作用する酸性多糖-無機複合ヒドロゲルの作製	物質		
	合計			36件	

(出典 総務課作成資料)

豊橋・長岡技術科学大学が公募する共同研究への申請・採択状況

【平成22年度】

相手先	研究題目	本校研究担当者	研究費額	採択結果
豊橋科学技術大学	実務スキル涵養する高専一技科大における制御工学教育プログラムの検討と作成	制御情報工学科 長谷 賢治	0	○ (包括契約)
豊橋科学技術大学	技術者教育としての課外活動の可能性の提示と「人間力」養成メニューの開発	物質工学科 渡辺 敦雄	0	○ (包括契約)
豊橋科学技術大学	持続可能な社会構築を目的とする市民の連携促進と環境配慮型まちづくりへの応用	物質工学科 渡辺 敦雄	200,000	○ (包括契約)
豊橋科学技術大学	機械システムのロバスト運動制御に関する研究	制御情報工学科 藤尾 三紀夫	0	○ (包括契約)
豊橋科学技術大学	近接場光デバイスの基盤技術の研究開発	電気電子工学科 佐藤 憲史	250,000	○ (包括契約)
豊橋科学技術大学	ナノコンポジット材料の高電界下での電荷挙動の把握と電気伝導機構の解明	電子制御工学科 遠山 和之	0	○ (包括契約)
豊橋科学技術大学	有機遷移金属錯体を構造規制剤に用いた新規ゼオライト合成法の開発と吸着、触媒能の特性化	物質工学科 稲津 晃司	280,000	○ (包括契約)
長岡科学技術大学	担持パラジウム触媒の酸化物薄膜修飾による触媒燃焼の基質選択性向上	物質工学科 稲津 晃司	300,000	○ (包括契約)
長岡科学技術大学	水晶基板の加工技術と特性評価に関する研究	電気電子工学科 野毛 悟	300,000	○ (包括契約)
長岡科学技術大学	光触媒によるトルエン誘導体の光直接酸化の化学種決定	物質工学科 押川 達夫	300,000	×→直接契約

計10件

1,630,000円

【平成23年度】				
相手先	研究題目	本校研究担当者	研究費額	採択結果
豊橋科学技術大学	Sr-R-Mn-Ti-O系化合物の相状態	教養科 小林 美学	研究プロジェクト 支援A	(未定)
豊橋科学技術大学	「人間力」養成プロジェクト ～ 課外活動～	電気電子工学科 野毛 悟	教育プロジェクト 支援	(未定)
豊橋科学技術大学	ラミネートフィルムによる交流高 電界下での絶縁性能の評価	電子制御工学科 遠山 和之	研究グループ活 動支援	(未定)
豊橋科学技術大学	人間力計測法の定量的把握方法に 関する研究	物質工学科 渡辺 敦雄	教育プロジェクト 支援	(未定)
豊橋科学技術大学	市民・学生双方向型の技術者教育 の試み～「福島第一原子力発電所 事故の定量的影響評価」を通して ～	物質工学科 渡辺 敦雄	教育プロジェクト 支援	(未定)
長岡科学技術大学	電子材料・デバイス研究への誘い ～薄膜形成と半導体デバイス実験 ～	電気電子工学科 野毛 悟	500,000	(未定)
長岡科学技術大学	メタン資化細菌共生系を利用した メタン固定化技術の開発	物質工学科 竹口 昌之	500,000	(未定)
長岡科学技術大学	歯や骨の再生を促進する薬物徐放 性多糖-無機ハイブリッドヒドロゲ ルの開発	物質工学科 山根 説子	500,000	(未定)
計8件			1,500,000円	(出典 総務課作成資料)

1. 在外研究員制度による派遣者

所 属	職 名	氏 名	派 遣 国	派 遣 先	期 間
制御情報工学科	准教授	鈴木 康人	イギリス	リバプール大学	H18.3~H18.10 (8月)
物質工学科	講師	古川 一実	イギリス	レスター大学	H22.4~H23.3 (1年)

2. 高専・両技科大間教員交流制度による派遣者及び受入者

【派遣者】

所 属	職 名	氏 名	派 遣 先	期 間
教 養 科	教 授	西 垣 誠 一	米子高専	H18~H20 (3年)
教 養 科	講 師	藤 井 数 馬	香川高専	H22~H23 (2年)
電気電子工学科	講 師	大 澤 友 克	豊田高専	H22~H23 (2年)
制御情報工学科	准教授	宮 下 真 信	豊橋技術科学大学	H23~H23 (1年)

【受入者】

所 属	職 名	氏 名	派 遣 元	期 間
教 養 科	准教授	白 根 弘 也	秋田高専	H19~H19 (1年)
教 養 科	准教授	高 津 浩 彰	豊田高専	H21~H21 (1年)
教 養 科	講 師	堀 江 太 郎	鈴鹿高専	H19~H20 (2年)
電気電子工学科	講 師	草 間 裕 介	香川高専	H22~H22 (1年)
電子制御工学科	准教授	内 堀 晃 彦	宇部高専	H20~H20 (1年)
電子制御工学科	助 手	管 隆 寿	一関高専	H18~H18 (1年)
制御情報工学科	教 授	市 川 周 一	豊橋技術科学大学	H23~H23 (1年)
物 質 工 学 科	准教授	津 田 良 弘	福井高専	H18~H18 (1年)

3. 内地研究員制度による派遣者

所 属	職 名	氏 名	派 遣 先	期 間
教 養 科	准教授	住 吉 光 介	高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所	H23.5~H24.2 (10月)

(出典 総務課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員組織の活動をより活発化するため、本校の教員募集においては公募制を採用し、年齢や経歴等を十分考慮した選考を行っている。その結果、教員の年齢構成は、特定の年代に偏らずバランスのとれたものとなっており、多様な教育経験や企業経験を有する教員によって、質の高い実践的な教育が行われている。博士の学位や技術士等の資格の取得率も高いレベルにあり、国立高等専門学校機構中期計画における目標を達成している。

また、平成21年度には校長が全教員とヒアリングを行い、教員組織を活性化するための具体策につ

いて各教員と話し合い、信頼関係の構築を図っている。その結果、女性教員の働きやすさに具体的に配慮しているほか、校長リーダーシップ経費の厳正な採択をはじめとして、科学研究費補助金の申請者への運営費交付金の追加配分、豊橋・長岡技術科学大学が公募する共同研究への申請の奨励、高専機構の在外研究員制度、高専・技術科学大学間教員交流制度、内地研究員制度の活用の奨励などを通じて、教員の研究活動、教育活動の活性化に努めている。

以上のように、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

観点3-2-①： 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

平成11年度より自己点検・評価委員会(資料3-2-①-1)を設置し、各学科等・委員会等のセルフチェックを中心とした自己点検・評価活動を行っている。

教員の講義等の教育活動に対する評価は、平成11年度より教務委員会が中心となり学生による授業評価アンケート(資料3-2-①-2)を継続して実施し、アンケート結果はウェブサイト上で全教員が確認することができる(資料3-2-①-3)。各教員はその結果を基に改善策を立て、次年度のシラバスに明記することが義務づけられている。学生の授業評価の結果とシラバスの内容を総合して教務主事(専攻科については専攻科長)が評価し数値化を進めている。

専攻科研究の指導教員については、学位(学士)取得結果を参考として、専攻科長が評価し数値化を進めている。

学級担任の学級運営及び学生指導については、学級日誌(資料3-2-①-4)及び学生の身上調書(資料3-2-①-5)の記録に基づいて教務主事が評価し数値化を進めている。

クラブ活動・課外活動の指導については、課外活動実施報告書(資料3-2-①-6)の記録に基づいて学生主事が評価し数値化を進めている。

学生寮の生活指導については、寮生指導日誌等の関連資料(資料3-2-①-7)の記録に基づいて寮務主事が評価し数値化を進めている。

以上のように、全教員の教育活動に対して、年度毎に各教員の全ての評価内容の数値を合計した値をその教員の教育活動の実績として評価する体制の整備を進めており(各評価の数値化についての詳細は訪問調査時に提示する)、平成17年度受審の認証評価において指摘された点を改善すべく適切に対応している。

平成 23 年度 各種委員会委員名簿 (2/2)

平成23年4月1日 現在

<p>地域連携・研究支援委員会 知的財産専門部会 ○ 藤尾 三紀夫 相 良 誠 稲 津 晃司 新 富 雅 仁 野 毛 悟 青 木 悠 祐 駒 佳 明 (事務) 総務係</p>	<p>安全衛生委員会 ○ 大 鳥 茂 渡 辺 敦 雄 相 良 誠 稲 津 晃司 牧 野 初 江 杉 山 賢 一 (事務) 人事係 (事務) 施設係</p>	<p>毒劇物管理委員会 ○ 芳 野 恭 士 遠 山 和 之 小 林 隆 志 望 月 孔 二 川 上 誠 長 谷 賢 治 西 垣 誠 一 事 務 部 長 課長補佐 (会計担当) (事務) 用度係</p>	<p>リレーション委員会 ○ 事 務 部 長 総 務 課 長 課長補佐 (会計担当) 手 塚 重 久 高 橋 儀 男 青 木 悠 祐 市 川 周 一 大 川 政 志 大 石 加 奈 子 滝 田 昌 稔 岡 本 ち づ 子 中 村 玲 治 (事務) 人事係</p>
<p>自己点検・評価委員会 ○ 柳 下 福 蔵 大 鳥 茂 蓮 實 文 彦 遠 藤 良 樹 遠 山 和 之 大 久 保 清 美 押 川 達 夫 小 林 隆 志 望 月 孔 二 川 上 誠 長 谷 賢 治 芳 野 恭 士 西 垣 誠 一 事 務 部 長 (事務) 総務係</p>	<p>国際交流委員会 ○ 大 久 保 清 美 大 鳥 茂 蓮 實 文 彦 遠 藤 良 樹 小 林 隆 志 望 月 孔 二 川 上 誠 長 谷 賢 治 芳 野 恭 士 西 垣 誠 一 事 務 部 長 総 務 課 長 学 生 課 長 (事務) 学生課課長補佐 (事務) 総務係</p>	<p>動物実験委員会 芳 野 恭 士 押 川 達 夫 後 藤 孝 信 藁 科 知 之 小 林 美 学 総 務 課 長 鈴 木 猛 (事務) 総務係</p>	<p>広報委員会「高専だより」 ○ 坂 本 信 男 大 石 加 奈 子 宮 内 太 積 高 橋 儀 男 長 澤 正 氏 松 本 祐 子 山 根 説 子 事 務 部 長 総 務 課 長 学 生 課 長 (事務) 総務係</p>
<p>就職委員会 ○ 柳 下 福 蔵 蓮 實 文 彦 小 林 隆 志 望 月 孔 二 川 上 誠 長 谷 賢 治 芳 野 恭 士 西 垣 誠 一 三 谷 祐 一 朗 佐 藤 憲 史 長 澤 正 氏 吉 野 龍 太 郎 竹 口 昌 之 野 毛 悟 事 務 部 長 学 生 課 長 (事務) 学生係</p>	<p>環境保全委員会 ○ 蓮 實 文 彦 遠 藤 良 樹 遠 山 和 之 小 林 隆 志 望 月 孔 二 川 上 誠 長 谷 賢 治 芳 野 恭 士 西 垣 誠 一 江 間 敏 事 務 部 長 課長補佐 (会計担当) (事務) 用度係</p>	<p>尚友会館会館運営委員会 ○ 蓮 實 文 彦 大 鳥 茂 遠 藤 良 樹 事 務 部 長 総 務 課 長 学 生 課 長 課長補佐 (会計担当) ◇ 学 生 係 長 (事務) 学生係</p>	<p>広報委員会「学校要覧」 三 谷 祐 一 朗 高 橋 儀 男 江 上 親 宏 相 良 誠 渡 辺 敦 雄 佐 藤 崇 徳 事 務 部 長 総 務 課 長 学 生 課 長 (事務) 総務係</p>
<p>組織文化DNA安全委員会 蓮 實 文 彦 竹 口 昌 之 古 川 一 実 鈴 木 猛 総 務 課 長 (事務) 総務係</p>	<p>施設整備計画委員会 ○ 柳 下 福 蔵 大 鳥 茂 蓮 實 文 彦 遠 藤 良 樹 遠 山 和 之 小 林 隆 志 望 月 孔 二 川 上 誠 長 谷 賢 治 芳 野 恭 士 西 垣 誠 一 事 務 部 長 総 務 課 長 学 生 課 長 課長補佐 (会計担当) (事務) 施設係</p>		

(出典 本校学内限定ウェブサイト)

授業アンケートの実施要綱

教務主事

授業アンケートの目的

- アンケート結果を踏まえて、担当している授業の改善に役立てる。
- 組織的に授業改善に取り組む一つの資料とする。
- 学生自身の授業に対する自覚を高める。

公表範囲

- 個々の科目の基礎データ(授業毎にまとめたデータ)に関しては、学内公開とする。
- 個々の学科で作成する自己点検評価書などを通じて、アンケート結果とその分析・対応などを一般に公開する。
- 学内公開用のフォーマットは別途定める。

実施範囲

- 実験・実習・卒研などを含む全科目で実施する。

評価段階と項目

- 評価は「非常に良い、良い、あまり良くない、悪い」の4段階で行う。
- 実験・実習系の科目で、該当しない項目については、授業担当者の指示で解答しないこととする。

実施時期

- 科目担当の教員が最終の授業(試験を含む)時間の中で実施する。
- 前期で終了する科目は前期の終わりに実施する。それ以外の科目は学年末に実施する。
- 最終の授業までで行うか、試験時に行うかは、個々の教員が判断する。

アンケートの配布と回収

- アンケート実施要綱、質問用紙、コード表、マークシート記入要綱を、教務係から担当教員に事前に配布する。
- 質問用紙、マークシート記入要綱、マークシートを、アンケート実施の際に学生に配布する。
- アンケート終了後、配布した用紙を全て回収する。
- マークシートの回答は、定められた期限までに、教務係に設置したアンケート回収箱に投函する。
- マークシート以外の用紙は、必要なら繰り返し利用する(教務係への返却は必要ない)。

使用する資料・物品など

	使用資料・物品名	使用個数	教務係から 教員へ配布	学生から教 員が回収	教務係への 返却/提出
実施教員用	アンケート実施要綱	各教員1部	○		
	アンケート実施に関するお願い		○		
	科目・教員コード表		○		
対象学生用	質問用紙/マークシート記入要綱	各学生1枚	○	要	要
	質問用紙/マークシート記入要綱	各学生1枚	○	要	要
	マークシート	各学生1枚	◎	要	要
記号凡例	○実施初回にのみ配付。担当全科目に亘って使用する。 ◎実施初回に担当全科目分を配付。				

(出典 本校学内限定ウェブサイト)

平成22年度 学年末 学科別集計結果(教養科)

沼津工業高等専門学校

国語					大石 加奈子			M2		回答数:		34											
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
非常に良い	35.3%	26.5%	41.2%	38.2%	32.4%	38.2%	50.0%	52.9%	41.2%	36.4%	44.1%	50.0%	50.0%	52.9%	47.1%	41.2%	44.1%	36.4%	45.5%	44.1%	52.9%	48.5%	
良い	55.9%	55.9%	44.1%	44.1%	50.0%	50.0%	41.2%	44.1%	47.1%	48.5%	44.1%	35.3%	38.2%	44.1%	47.1%	50.0%	50.0%	54.5%	48.5%	41.2%	38.2%	45.5%	
あまり良くない	2.9%	11.8%	11.8%	11.8%	11.8%	8.8%	5.9%	2.9%	11.8%	6.1%	11.8%	14.7%	11.8%	2.9%	5.9%	5.9%	9.1%	3.0%	11.8%	5.9%	0.0%		
悪い	5.9%	5.9%	2.9%	5.9%	5.9%	2.9%	2.9%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	3.0%	2.9%	2.9%	6.1%	
回答数	34	34	34	34	34	34	34	34	34	33	34	34	34	34	34	34	34	33	33	34	34	33	

国語					神田 朝美			M3		回答数:		45											
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
非常に良い	33.3%	31.1%	46.7%	46.7%	40.9%	46.7%	46.7%	55.6%	55.6%	44.4%	37.8%	44.4%	55.6%	48.9%	51.1%	44.4%	48.9%	46.7%	38.6%	31.8%	59.1%	38.6%	
良い	51.1%	55.6%	40.0%	46.7%	50.0%	44.4%	51.1%	35.6%	35.6%	44.4%	46.7%	42.2%	40.0%	40.0%	35.6%	40.0%	35.6%	44.4%	38.6%	43.2%	34.1%	47.7%	
あまり良くない	11.1%	11.1%	11.1%	4.4%	9.1%	8.9%	2.2%	6.7%	6.7%	8.9%	15.6%	13.3%	4.4%	11.1%	13.3%	13.3%	13.3%	8.9%	20.5%	22.7%	4.5%	11.4%	
悪い	4.4%	2.2%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	0.0%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	
回答数	45	45	45	45	44	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	44	44	44	44	

国語					大石 加奈子			E2		回答数:		38											
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
非常に良い	65.8%	63.2%	73.7%	57.9%	63.2%	71.1%	71.1%	68.4%	68.4%	65.8%	65.8%	71.1%	65.8%	68.4%	65.8%	73.7%	63.2%	71.1%	65.8%	60.5%	73.7%	76.3%	
良い	31.6%	31.6%	21.1%	34.2%	31.6%	23.7%	23.7%	23.7%	26.3%	26.3%	28.9%	23.7%	28.9%	26.3%	26.3%	21.1%	31.6%	21.1%	28.9%	34.2%	18.4%	18.4%	
あまり良くない	2.6%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%	7.9%	5.3%	5.3%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%	5.3%	7.9%	5.3%	
悪い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
回答数	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	

国語					神田 朝美			E3		回答数:		37											
質問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
非常に良い	47.2%	37.8%	37.8%	37.8%	36.1%	47.2%	44.4%	33.3%	47.2%	50.0%	41.7%	47.2%	55.6%	55.6%	52.8%	44.4%	41.7%	44.4%	41.7%	34.3%	48.6%	42.9%	
良い	44.4%	54.1%	59.5%	48.6%	55.6%	38.9%	52.8%	55.6%	47.2%	44.4%	44.4%	44.4%	41.7%	41.7%	41.7%	38.9%	47.2%	41.7%	54.3%	42.9%	48.6%		
あまり良くない	5.6%	5.4%	0.0%	10.8%	5.6%	11.1%	0.0%	8.3%	2.8%	2.8%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	2.8%	11.1%	13.9%	5.6%	13.9%	8.6%	5.7%		
悪い	2.8%	2.7%	2.7%	2.7%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	5.6%	2.8%	2.8%	2.9%	2.9%		
回答数	36	37	37	37	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	35	35	35	

資料3-2-①-4

学級日誌の書式

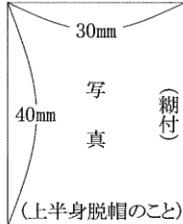
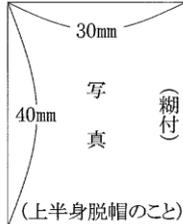
学級担任 教員印		月 日 曜日		天 候	当 番 氏 名	
授業科目名		教員名	学習内容の要点		遅刻者氏名	欠課者氏名
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
教室 清掃 当番	No.	清掃 状況	本 日 の 反 省 と 所 感			
	~ No.					

(出典 学生課作成資料)

⑧ 平成23年度 学生身上調書

沼津工業高等専門学校

※学級					
※番号					

(ふりがな) 氏名		平成 年 月 日生			男・女			
本籍		都道府県						
本人の 現住所	年月日	電話			寮 察	自宅 知人	下宿 アパート	親戚 貸間
	年月日	電話			寮 察	自宅 知人	下宿 アパート	親戚 貸間
	年月日	電話			寮 察	自宅 知人	下宿 アパート	親戚 貸間
	年月日	電話			寮 察	自宅 知人	下宿 アパート	親戚 貸間
	年月日	電話			寮 察	自宅 知人	下宿 アパート	親戚 貸間
	年月日	電話			寮 察	自宅 知人	下宿 アパート	親戚 貸間
	年月日	電話			寮 察	自宅 知人	下宿 アパート	親戚 貸間
保護者名		続柄		職業		学生証 番号	※	
保護者の本籍	都道府県				一、二、三 学年	 写真 (糊付) (上半身脱帽のこと)		
保護者現住所	電話							
保証人名		続柄		職業				
保証人現住所	電話			四、五 学年	 写真 (糊付) (上半身脱帽のこと)			
通学方法	区間	方法	所要時間				距離	
	-		時間 分				. km	
	-		時間 分				. km	
	-		時間 分				. km	
	計		時間 分	. km				
入学 までの 概要	中学校名			入学	転出転入	卒業		
	中学校				
	中学校				
	高等学校				
学年	生徒会役歴		所属クラブ		主な既往症			
	1							
	2							
	3							
	1							
	2							

(記入上の注意) 鉛筆で記入する。本籍は都道府県名のみ記入する。保証人欄は保護者以外の場合のみ記入する。
 ※印のところは記入しないこと。記入事項に変動があった時は速やかに学級担任へ届け出ること。

記入例

課外活動実施報告書 4月分(4/1~4/25)

クラブ名	〇〇〇部
氏名	沼津 太郎 印

日付	実施時間	時間数	実施場所	実施内容	同行コーチ	交通費 (実費)	備考	
4月1日	金	~						
4月2日	土	13:00 ~ 17:00	4:00	沼津高専第1体育館	練習			
4月3日	日	9:00 ~ 17:00	8:00	小山高校	練習試合	三島 次郎	650円	三島~足柄
4月4日	月	~						
4月5日	火	~						
4月6日	水	~						
4月7日	木	~						
4月8日	金	~						
4月9日	土	~						
4月10日	日							
4月11日	月	~						
4月12日	火	~						
4月13日	水	16:30 ~ 18:30	2:00	沼津高専第1体育館	練習			
4月14日	木	~						
4月15日	金	16:30 ~ 18:30	2:00	沼津高専第1体育館	練習			
4月16日	土	13:00 ~ 17:00	4:00	沼津高専第1体育館	練習及びOB戦			
4月17日	日	9:00 ~ 16:00	7:00	沼津市民体育館	インターハイ東部地区予選	三島 次郎	360円	三島~沼津
4月18日	月	~						
4月19日	火	~						
4月20日	水	~						
4月21日	木	~						
4月22日	金	~						
4月23日	土	~						
4月24日	日	~						
4月25日	月	~						

平日の練習も指導に従事した場合は記入する。

交通費を負担した場合は金額及び区間を記入する。

※クラブ指導に従事した時間を記入すること。(会場への移動時間は含めない。)
 ※公共交通機関を利用し、交通費を負担した場合は金額(実費)を記入すること。

(出典 学生課作成資料)

寮生指導日誌

寮務主事	寮 監

平成 年 月 日 (曜日)

宿直教員名 _____ 印

・入室時刻 _____ 時 _____ 分 ・退室時刻 _____ 時 _____ 分

遅刻・早退の場合、その理由： _____

・点呼報告 (外出・外泊者の確認、点呼時不明者の所在確認等)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

・巡視報告

巡視時間： _____

巡視箇所： _____

観察・指導内容： _____

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

・その他 _____

.....

.....

.....

.....

(出典 学生課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

全教員の教育活動に対して、講義等、専攻科研究指導、学級運営・学生指導、クラブ活動・課外活動指導及び寮生の生活指導などの評価を全て数値化して総合的に評価する作業が進行中である。

以上のことより、全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価を行う体制の整備が進行中である。なお、現在のところ教員組織の見直し等の必要性は存在しない。

観点 3-2-②： 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点到に係る状況)

昇格については、沼津工業高等専門学校教員選考内規(資料 3-2-②-1)に定められているとおり、各学科の推薦委員会が、校長・教務主事・学生主事・寮務主事・当該学科長で構成する教員選考委員会に昇格候補者の推薦を行う。教員選考委員会では、昇格候補者が作成した個人調書・著書論文一覧・自己申告書に基づき、講義・学生指導・課外活動等の教育における実績、研究における実績、学校運営及び社会貢献における実績のほか、学位・勤務年数等について総合評価を行い、昇格を決定している。

また、平成 23 年度からは、教育実績・研究実績・学校運営及び社会貢献における評価項目を細分化した上で数値化し、勤続年数及び学位・資格等と総合して評価する教員昇格推薦基準の策定を進めている(詳細は、調査訪問時に提示する)。

採用については、平成 19 年に教員選考内規を一部改正し、採用手続きを変更した。公募を実施する場合、公募する教員の専門分野・職種・公募内容について、教員選考委員会で審議の上、公募を実施している。これらの公募は、全国高等専門学校・学会誌・研究者人材データベース・本校ホームページで周知を行っている。当該学科の推薦委員会の書類選考結果に基づき、教員選考委員会において、再度審議を行い、原則 3 名程度の面接候補者を決定する。推薦委員会で面接及び模擬授業を実施し、当該学科長から面接及び模擬授業の状況報告後、教員選考委員会の合議の上、採用内定者を決定している。

選考の際の視点は、公募を行っている専門分野での実績があり、教育とともに学級担任等の学生指導にも熱意を持ち、教育と研究を両立することができる人材を採用するよう努めている。

なお、非常勤講師の採用については、「沼津工業高等専門学校非常勤講師に関する内規」(資料 3-2-②-2)が定められており、各学科等から提出された「非常勤講師委嘱依頼願」(資料 3-2-②-3)により、教務主事が経歴等をチェックし、教務委員会で確認を行った上で(資料 3-2-②-4)、非常勤講師を適切に委嘱している。

資料 3-2-②-1

○沼津工業高等専門学校教員選考内規

(平成 8.9.11 制定)

最終改正 平成 19.6.13

(趣旨)

第 1 条 本校における教員（教授、准教授、講師及び助教）の採用及び昇任（以下「採用等」という。）の選考等は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（平成 16 年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 6 号）、その他法令等に特別の定めのある場合を除くほか、この内規の定めるところによる。

(採用等の発議)

第 2 条 各学科又は教養科（以下「学科等」という。）において、教員の採用等を必要と認めたときは、当該の学科等の長が第 1 号様式により、校長に申し出る。（採用の場合は公募文案を添付する。）

(推薦委員会)

第 3 条 校長は、前条の申し出がありこれを必要と認めたとき又は管理運営上特に必要があると認めたとき、当該の学科等に推薦委員会を設置する。

2 推薦委員会は、当該の学科等の長及び校長が指名した教員をもって組織する。

第 4 条 推薦委員会は、採用等の候補者を選定し、次の書類をもって（採用の場合は書類選考し複数名を）選考委員会に推薦する。

(1) 推薦書

(2) 履歴書（採用者の場合）

(3) 教員選考個人調書

(4) 著書・論文等一覧

(5) 著書・論文等の概要

(6) 企業での各部門における実績（企業からの採用者の場合）

(7) 沼津工業高等専門学校における教育・研究に対する抱負（本校内において昇任する者を除く。）

(8) 「自己申告書」（本校内において昇任する者）

(9) その他校長が必要と認めた書類

2 推薦委員会は面接等を実施することができる。

(選考委員会)

第 5 条 校長は、学科等から第 2 条の申し出があったとき、選考委員会を設置する。

選考委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 校長

(2) 副校長（教務主事）、校長補佐（学生主事）及び校長補佐（寮務主事）

(3) 当該の学科等の長

(4) その他校長が必要と認めた者

3 選考委員会は、校長が招集し、議長となる。

第 6 条 第 2 条の発議内容の審査、公募文案、及び採用等の候補者の選考は、選考委員会の議に基づき校長が行う。

(事務)

第 7 条 選考委員会に関する事務は、総務課が行う。

(補則)

第8条 この内規に定めるもののほか、教員の採用等の選考に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この内規は、平成8年9月11日から施行する。

附 則

この内規は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成16年4月14日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成17年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成19年6月13日から施行し、同年4月1日から適用する。

(出典 本校規則集)

資料3-2-②-2

○沼津工業高等専門学校非常勤講師に関する内規

(昭和53.8.21制定)

最終改正 平成16.4.14

第1条 非常勤講師は、特殊な専門的知識・技術を必要とする内容の科目の授業実施、及び本校教員の授業負担の過大を緩和するため、必要最小限の員数の学識経験者に委嘱する。

第2条 非常勤講師は、次の各号に該当する者を委嘱する。

- (1) 高等専門学校設置基準に定められた講師以上の教員資格を有する者
- (2) 年齢満70歳以下の者
- (3) 健康で勤務に支障のない者

2 前項によりがたい場合は、校長の了承を得て措置する。

第3条 非常勤講師の授業時間は、原則として、1週1日4時間以内とする。

附 則

この内規は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成16年4月14日から施行し、同年4月1日から適用する。

(出典 本校規則集)

非常勤講師委嘱依頼願

提出者 学科長

氏名	(漢字)	(ふりがな)
生年月日	昭和 年 月 日生	(才)
現住所	〒	
電話番号	() -	
E-mail		
委嘱期間	通年・前期・後期・集中講義 (月 日～月 日)	
担当科目/必修・選択の別	必修・選択	
担当クラス		
週来校日数・時間	日 時間	
依頼担当教員名		
必要理由 (できるだけ詳細に)		
得られる効果(前年度引き 続きの場合は得られた効果)		
勤務先	名称	役職
	所属	
	住所	
	電話番号	() -
委嘱状宛名 (公文書)	名称	
	役職等	
	氏名	
委嘱状 送付先	名称	
	担当係・者	
	住所	〒
	電話番号	() -
備考		

(出典 学生課作成資料)

資料 3-2-②-4

平成 22 年度 第 6 回教務委員会議事録（一部抜粋）

日 時 平成 23 年 2 月 4 日（金） 13:05～14:30

場 所 選択制教室 3・4（共通棟 1 階）

出席者 教務主事 大島，教務副主事 村松，教務主事補 勝山，遠山

教務委員 高野，後藤，三谷，学科長 小林，望月，長谷，押川，西垣

専攻科長 芳野，図書館長 江間，学生課長 山添，教務 大河，影山

（前略）

9. 平成 23 年度非常勤講師委嘱に関して

（資料 8）平成 23 年度非常勤講師予定一覧

- ・資料通り確認された。
- ・一部非常勤の週・時間については，時間割が定まってからとなる。

（後略）

（出典 教務委員会議事要録）

（分析結果とその根拠理由）

採用については，複数の候補者から教育指導能力と研究活動能力を総合的に評価し採用するよう努めており，適切に運用がなされている。昇任についても同様であるが，より適切な運用を図るため，平成 23 年度から各評価項目を数値化し，勤続年数及び学位・資格等と総合して評価する教員昇格推薦基準をより明確化する作業を進めている。また，非常勤講師の採用についても，定められた内規に基づき，適切に対応している。

以上のことから，教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされている。

観点 3-3-①： 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の事務組織は，教育支援及び学生支援を行うための組織として，学生課を配置し，教育課程の展開を支援する主な部署である教務係に 4 名の職員を配置している（資料 3-3-①-1）。教務係における教育支援業務（資料 3-3-①-2）は，定期試験時間割作成，教科書・教材の取りまとめ，教室の設備・備品等の維持管理，学外実習の連絡調整等があり，教員と協働により業務を行っている。

技術職員については，定員削減が求められている状況において，技術職員の職務の合理化及び効率化を図り，教育支援体制の更なる強化を目的として，技術職員を組織化することとし，平成 18 年度に全学的な組織である技術室を設置した。技術室は，実習工場班，機械系班，電気・電子・情報系班，物理・化学系班の 4 班からなり，再雇用職員を含め 17 名を配置している（資料 3-3-①-1）。技術室の主な業務（資料 3-3-①-3）は，実験・実習・卒業研究における教育の補助や技術指導，教員からの依頼による教材の作成，実験室・実習室等の設備・備品等の維持管理等であり，技術室と各学科が連携し，教育支援を行っている（資料 3-3-①-4）。

事務職員・技術職員の配置状況

【事務部】

		事務職員	技術職員	看護師	非常勤・再雇用職員等
事務部	事務部長	1			
	総務課	課長	1		
		課長補佐	2		2
		専門員	1		
		総務係	4		5
		人事係	3		
		財務係	3		1
		用度係	3		1
		施設係		2	
	学生課	課長	1		
		課長補佐	1		1
		教務係	4		
		入試係	2		
		学生係	3		1
	寮務係	1		5	
	図書係	1		3	
計		31	2	1	18

【技術室】

		教員	技術職員	再雇用職員
技術室	技術室長	1		
	技術長		1	
	実習工場班		5	1
	機械系班		2	1
	電気・電子・情報系班		3	
	物理・化学系班		2	2
計		1	13	4

※平成23年5月1日現在

※ 技術長は、電気・電子・情報系班を兼任。（電気・電子・情報系班の外数）

（出典 総務課作成資料）

資料 3 - 3 - ① - 2

○沼津工業高等専門学校事務分掌細則

(昭和 44. 4. 1 制定)

最終改正 平成 22. 3. 31

(教務係)

第 13 条 教務係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 学生課内の総括及び連絡，調整に関する事。
- (2) 教育課程に関する事。
- (3) 授業及び休業に関する事。
- (4) 学生の校外実習及び見学に関する事。
- (5) 学生の修学及び卒業に関する事。
- (6) 学生の休学，退学等学籍に関する事。
- (7) 学生の成績原簿及び指導要録の保存に関する事。
- (8) 学生及び卒業生の学籍並びに成績等諸証明に関する事。
- (9) 教科書，教材及び教具等に関する事。
- (10) 学生の課外教養行事に関する事。
- (11) 授業料収入金調査書の作成及び変更に関する事。
- (12) 所掌事務の調査，統計その他諸報告に関する事。

(出典 本校規則集)

沼津工業高等専門学校技術室規程

(設置)

第1条 独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号）第12条の規程に基づき、沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、技術室を置く。

(目的)

第2条 技術室は、本校の学科等の要請に基づき、技術・技能を要する専門業務を行うことにより、本校における教育研究等の業務を支援する。

(業務)

第3条 技術室は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 実験・実習における教育の補助及び技術指導に関すること。
- (2) 教育研究に必要な技術業務、技術開発及び教材作成に関すること。
- (3) 情報システム基盤の維持・管理に関すること。
- (4) 地域共同テクノセンター、総合情報センター、スペース・コラボレーション・システム、マルチメディア教室に関すること。
- (5) 実験室、実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。
- (6) 地域社会との連携に基づく技術協力に関すること。
- (7) 技術の継承・保存に関すること。
- (8) 技術職員の研修の企画、立案及び実施に関すること。
- (9) 技術職員の養成に関すること。
- (10) 学校行事への準備及び支援に関すること。
- (11) 本校の業務の技術支援に関すること。
- (12) その他技術室に関すること。

(組織)

第4条 技術室は、技術室長、技術長、技術専門員、技術専門職員及び技術職員（建物及び施設の営繕、保守並びに管理に関する事務を担当する技術職員その他これに準ずる技術職員を除く。）をもって組織する。

(技術室長)

第5条 技術室長は、本校の教授の中から校長が任命する。

- 2 技術室長は校長の命を受け、技術室の業務を総括する。
- 3 技術室長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(技術長)

第6条 技術長は、技術専門員または技術専門職員の中から校長が任命する。

- 2 技術長は技術室長の命を受け、技術室の技術職員の業務を総括するとともに、必要に応じ、連絡調整、技術職員の技術的な指導、育成を行う。

(班・班長)

第7条 技術室に、専門的技術の内容と必要に応じて、班および班長を置く。

- (1) 実習工場班（主に機械実習工場に関する業務を行う。）
- (2) 機械系班（主に機械工学科及び制御情報工学科に関する業務を行う。）
- (3) 電気・電子・情報系班（主に電気電子工学科、電子制御工学科及び総合情報センターに関する業務を行う。）
- (4) 物理・化学系班（主に教養科及び物質工学科に関する業務を行う。）
- 2 班長は上司の命を受け、班の業務を統括し、円滑な業務遂行に努め、必要な連絡調整を行う。

(運営委員会)

第8条 技術室の運営に関する基本的な事項を審議するため、技術室運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会の組織、運営については、別に定める。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、技術室の運営に関し必要な事項は、技術室長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成20年10月8日から施行し、平成20年10月1日から適用する。

(出典 本校規則集)

平成23年度支援申請書一覧表(全体一覧)

学科等	担当者	支援内容	支援班	支援 人数	支援 の 可	対応班
T	藤尾三紀夫	テクノフォーラム準備と実施および後片付け	技術室	12	可	技術室
T	藤尾三紀夫	工場実習(F-met)	実習工場	5	可	実習工場
T	藤尾三紀夫	3次元立体造型機の操作(F-met) 「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」	機械系・電気電子情報系	1	可	機械系
T	藤尾三紀夫	3次元CAD/CAMソフトウェアのオペレーション(F-met) 「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」	機械系・電気電子情報系	2	一部可	機械系
T	藤尾三紀夫	マシニングセンターV33のオペレーションと切削動力測定実験(F-met)「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」	機械系	2	一部可	実習工場
S	相良 誠・機械工学科教員	工作実習(後期水曜日2・3・4時限)	実習工場・機械系	6	可	実習工場・機械系
S	長谷 賢治・市川 周一	制御情報工学プログラミング演習I(通年(毎金曜日 5~8時限))	電気電子情報系	1	可	機械系
S	鈴木 康人	制御情報工学プログラミング演習2(通年(毎火曜日 5~8時限))	電気電子情報系	1	一部可	電気電子情報系
S	芹澤 弘秀	メカトロニクス演習 I(通年 金曜日 5~8時限)	機械系または電気電子情報系	1	可	機械系
S	松本 祐子	メカトロニクス演習 II(通年 火曜日 5~8時限)	電気電子情報系	1	可	機械系
S	大久保進也	メカトロニクス演習 III(通年 月曜日 5~8時限)	機械系または電気電子情報系	1	可	機械系
S	鈴木 茂樹	制御情報工学科内のネットワーク管理及びホームページの管理 適時(週2回程度)	電気電子情報系	1	可	機械系
S	長谷 賢治	学科共通支援業務	特に問わない	1	可	機械系
S	相良 誠	工学実験(通年 木曜日 5~7時間)	機械系	1	可	機械系
S	吉野龍太郎、大島茂、長谷賢治、相良 誠	創造設計 前期:金曜日 6~7時限 後期:木曜日 5~8時限	機械系・情報系	1	一部可	機械系
S	吉野龍太郎	卒業研究 通年:水曜日 5.6時限 (桶田)	機械系	1	可	機械系
S	吉野龍太郎、大島茂、長谷賢治、相良 誠	創造設計	機械系・情報系	1	可	機械系
O	岡本ちづ子	図書館IT関係業務	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
O	山口正志	公開講座支援(公開講座開催日及びその前後)	技術室		可	
O	山口正志	公式ホームページの維持管理に関する技術支援	電気電子情報系		可	
O	山口正志	事務情報化推進に係る技術支援	電気電子情報系		可	電気電子情報系
O	山口正志	工具セットメンテナンス	技術室		可	
M	井上 聡	機械工学実験 I (材料工学分野)通年(火曜5~7時限)	機械系	1	可	機械系
M	小林 隆志	機械工学実験 II (計算力学分野)通年(木曜6~8時限)	機械系	1	可	機械系
M	西田 宮内 新富 山中 永禮 松田 小林	機械設計製図 I、II、III、IV 前期:月曜日 3~7 後期:月曜日 1.2 水曜日 2~4 金曜日 3.4	機械系	1	可	機械系
M	機械工学科各教員	機械工学科の学科支援(H23年度中の適時)	機械系	2	可	機械系
M	機械工学科各教員	機械工学科の情報処理に関する管理・保守(H23年度中の適時) 卒業研究(機械工学科コンピュータ演習室)	機械系	1	可	機械系
M	小林 隆志	月:7~8時限(前期)、3~7時限(後期) 水:5・6(後期) 金:3~6時限(前期)、5~7時限(後期)	機械系	1	可	機械系
M	村松 久巳	機械工学科TOEIC教育の支援(平成23年度中の適時)	機械系	1	可	機械系
M	永禮 哲生、新富 雅仁	エコランカー製作の支援	実習工場	5	可	
M	小林 隆志・宮内 太積・松田 伸也	機械工作実習 I	実習工場・機械系	6	可	実習工場・機械系
M	井上 聡・永禮 哲生・山中 仁	機械工作実習 II	実習工場・機械系	6	可	実習工場・機械系
M	宮内 太積・松田 伸也	設計製図Ⅲ	実習工場	5	可	実習工場
M	宮内 太積・松田 伸也	工作実習Ⅲ	実習工場・機械系	6	可	実習工場・機械系
M	小林 隆志	機械設計製図Ⅳ	実習工場	5	可	実習工場
M	全学科各教員	卒業研究	実習工場	5	可	実習工場
M	小林 隆志	留学生及び編入生の補講	実習工場	5	可	実習工場
M	小林 隆志	機械工学科E-learning教育の支援(機械実習工場教育関係)	実習工場	5	可	実習工場
L	西垣 誠一・勝山智男・小林美学	学科支援(教養科)(通年)	物理化学系	2	可	物理化学系
L	小林 美学	C1化学 I、II(前期:木曜1・2 後期:木曜1・2)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	M1化学 I(前期:金曜1・2 後期:水曜5・6)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	E1化学 I(前期:金曜5・6 後期:金曜5・6)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	D1化学 I(前期:月曜3・4 後期:木曜7・8)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	S1化学 I(前期:火曜1・2 後期:金曜1・2)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	今野 信男	M2化学 II(前期:金曜5・6 後期:木曜3・4)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	今野 信男	E2化学 II(前期:金曜3・4 後期:木曜5・6)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	西島 帯刀	D2化学 II(前期:月曜3・4 後期:火曜5・6)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	西島 帯刀	S2化学 II(前期:月曜1・2 後期:月曜1・2)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	小林 美学	化学Ⅲ(前期:水曜1・2時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山 智男・駒 佳明	M1物理(実験)(前期:火曜1・2 後期:火曜3・4)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山 智男	E1物理(実験)(前期:月曜3・4 後期:木曜5・6)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	廣瀬豊(常勤補助:勝山智男)	D1物理(実験)(前期:水曜5・6 後期:木曜1・2)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	駒 佳明	S1物理(実験)(前期:木曜7・8 後期:月曜5・6)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	廣瀬豊(常勤補助:勝山智男)	C1物理(実験)(前期:金曜1・2 後期:水曜3・4)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男・駒 佳明	M4応用物理実験(前期 月曜日5・6時限)	物理化学系	1	可	物理化学系

L	勝山智男・駒 佳明	E4応用物理実験(前期 火曜日7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男・駒 佳明	S4応用物理実験(前期 水曜日3・4時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男・駒 佳明	C4応用物理実験(前期 木曜日5・6時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男	M2物理実験(後期 火曜日5・6時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男	E2物理実験(後期 火曜日7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男	D2物理実験(後期 月曜日7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	勝山智男	S2物理実験(後期 月曜日5・6時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
L	塩谷 三徳	MM教室の管理補助(適時)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
L	塩谷 三徳	英語学習用e-Learningシステムの保守管理	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
K	小林 隆志	機械実習工場の管理・運営・保守	実習工場	5	可	実習工場
K	小林 隆志	ロボコン、高専祭等における学生の課外活動援助	実習工場	5	可	実習工場
J	中道義之	「情報処理基礎」の補助	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
J	牛丸真司	基幹ネットワーク・サーバ管理	機械系・電気電子情報系	4	可	電気電子情報系
J	牛丸真司	教育用電子計算機システム管理	機械系・電気電子情報系	4	可	電気電子情報系
J	牛丸真司	専情委事務業務	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
J	牛丸真司	学内情報化の推進に関する技術支援	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
J	中道義之	総合情報センター運営支援	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
E	西村 賢治	電気電子工学実験Ⅰ(前期, 水曜日5, 6 後期, 火曜日5~8)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	江間 敏	電気電子工学実験Ⅱ(前期, 火曜日5~8時限 後期, 月曜日5~8時限)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	眞鍋 保彦	電気電子工学実験Ⅲ(通年, 木曜日5~8時限)	電気電子情報系	3	一部可	電気電子情報系
E	野毛 悟	電気電子工学実験Ⅳ(前期, 月曜日3,4時限 と 金曜日5,6時限, 後期, 金曜日5~8時限)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	佐藤 憲史	電気電子工学実験Ⅴ(前期, 月曜日5~8時限)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	望月孔二または各担当教員	電気電子工学科支援	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	望月孔二	鉛フリーハンダセット管理	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
E	手塚 重久	機械工学概論	実習工場・機械系	6	可	実習工場・機械系
D	大庭 勝久・新富 雅仁	電子制御工学実験Ⅱ(後期金曜日1~4時限)	実習工場・機械系・電気電子情報系	8	可	実習工場・機械系
D	江上 親宏・大沼 巧	電子制御工学実験Ⅰ(D実Ⅰ前期)(前期 金曜日5・6時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	江上 親宏・大沼 巧	電子制御工学実験Ⅰ(D実Ⅰ後期)(後期 金曜日5~8時限)	電気電子情報系	2	可	電気電子情報系
D	大庭 勝久・出川 智啓	D2プログラミング入門(後期 火曜日3・4時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	江上 親宏	UNIX入門(前期 水曜日3・4時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	大庭 勝久・青木悠祐	電子制御工学実験Ⅱ(前期)(前期 水曜日5・6時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	鄭 萬溶	D4学生実験(光の速度測定)(後期 木曜日3~8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
D	大庭 勝久・出川 智啓	D3 C言語基礎演習(前期 月曜日1・2時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	川上 誠	電子機械基礎実習(後期 月曜日7・8時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	川上 誠	工学実験(トランジスタの静特性)(前期 月曜日5~8時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	川上 誠	電子制御工学実験Ⅲ(D実Ⅲ後期)(後期 火曜日5~8時限)	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	長澤 正氏(就職担当)	就職関連の資料の整理とWebへの掲載(1年間(20分/件×500件))	電気電子情報系	1	可	電気電子情報系
D	舟田 敏雄(学科長)	電子制御工学科支援			可	電気電子情報系
D	大庭 勝久	工作室で使用する工具や工作機械の講習(前期開始時 4h/年)	実習工場		可	実習工場
D	江上 親宏	実験器具の準備、操作、試薬作製等の技術的支援(前期中に1回程度)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	永禮 哲生	機械工学概論(前期金曜日1・2・3・4時限)	実習工場・機械系	6	可	実習工場・機械系
C	後藤 孝信	物質工学入門(通年水曜日5・6時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	藁科 知之	分析化学実験(4/7~6/17 木、金 5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	大川 政志	無機化学実験(6/23~11/18 木、金 5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	蓮実 文彦	微生物学実験(11/24~2/17 木、金 5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	押川 達夫	有機化学実験(6/23~11/11 木、金 5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	後藤 孝信	生物化学実験(4/7~6/17 木、金 5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	稲津 晃司	物理化学実験(11/17~2/17 木、金 5・6・7・8時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	山根 説子	材料化学実験Ⅰ(7/4~11/15 月、火 5・6・7時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	芳野 恭士	生物工学実験Ⅰ(7/4~11/15 月、火 5・6・7時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	渡辺 敦雄	材料化学実験Ⅱ(11/21~2/28 月、火 5・6・7時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	古川 一実	生物工学実験Ⅱ(11/21~2/28 月、火 5・6・7時限)	物理化学系	1	可	物理化学系
C	竹口 昌之	化学工学実験(4/11~6/28 月、火 5・6・7時限)	物理化学系	2	可	物理化学系
C	押川 達夫	学科支援(通年)	物理化学系	2	可	物理化学系
A	蓮実 文彦	組換えDNA実験に関する安全委員会	物理化学系	1	可	物理化学系
A	相良 誠	専攻科実験 未定(4回分)	機械系	1	可	機械系
A	芳野 恭士	動物実験委員会委員(年間に約2回の会議に出席)	物理化学系	1	可	物理化学系
A	蓮実 文彦	キャリア教育	物理化学系	1	可	物理化学系

(出典 技術室作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の事務組織は、総務課と学生課で構成され、教育支援及び学生支援は学生課において実施している。定員削減が実施されたが、教務係においては、定員削減は行わず4名の職員配置を継続すると

ともに、平成20年度からは入試係を新設し、教務係において実施していた入試関係業務を教務係の所掌から分離させ、教育支援業務を的確に実施できるよう充実を図っている。

技術職員については、平成18年度に技術職員を組織化し技術室を設置した。従前は、庶務課（現総務課）に所属していたが、業務上は各学科に属していたため、技術職員間の連携が希薄であり、当該職員が不在の場合等は教員の負担となっていた。組織化により、各職員の専門性を考慮しながら、各班において学科にとらわれない支援を行う等、全学的組織として教育活動に対する技術的支援が可能となった。

以上のように、本校の教育活動を展開するのに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者は適切に配置されている。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

県立高校で校長・教頭等の要職も務めた教育経験豊富な教員を、専任の寮監として配置することで、低学年全寮制のもとでの全人的な教育に適切に対応している。

校長ヒアリングに基づく校長リーダーシップ経費の厳正な採択をはじめとする効果的な研究費の配分、また共同研究への申請の奨励、教員交流制度や在外・内地研究員制度の活用などを通じて、教員の研究活動、教育活動の活性化に努めている。

全学的な組織として技術室を設置し、技術職員の職務の合理化及び効率化を図るとともに、全学的組織として技術的支援を行うことが可能となっている。

（改善を要する点）

該当なし。

（3）基準3の自己評価の概要

一般科目担当の専任教員及び専門科目担当の専任教員は、教員数や職位に関する高等専門学校設置基準を満たしつつ、かつ本校の学習・教育目標等に沿った教育課程を踏まえ、各自の専門分野に応じた授業科目を担当しており、適切に配置されている。専攻科担当教員の資格は、「プログラム担当教員の資格」に規定されているが、博士の学位を有する講師以上の常勤教員が主体となり、JABEE認定を受けた「総合システム工学プログラム」の学習・教育目標等に従って、教育活動を展開している。

教員採用は公募制によって行われ、教員選考委員会における選考を通じて、複数の候補者から教育指導能力と研究活動能力を総合的に評価し採用するよう努めるとともに、年齢・性別等における均衡ある教員組織の維持・発展が可能な体制を構築している。一方で、豊かな教育経験や企業での実務経験、そして技術士をはじめとする各種の技術資格を有する教員を採用・配置することで、多様な背景を持つ教員組織ともなっている。また、校長ヒアリングに基づく校長リーダーシップ経費の厳正な採択をはじめとして、効果的に研究費を配分しつつ、さらに共同研究への申請の奨励、教員交流制度や在外・内地研究員制度の活用などを通じて、教員の研究活動、教育活動の活性化に努めることで、より高度で実践的な教育の実現が図られている。

全教員の教育活動に対して、講義等、専攻科研究指導、学級運営・学生指導、クラブ活動・課外活動指導及び寮生の生活指導などの評価を全て数値化して総合的に評価する作業が進行中であり、学校

による定期的な評価体制の整備が推し進められている。これと同時に、各教員の教育実績・研究実績・学校運営及び社会貢献における評価項目を細分化したうえで数値化し、勤続年数及び学位・資格等と総合して評価する教員昇格推薦基準の策定を進めており、より適切な運用を図っている。

本校における教育活動を展開するのに必要な教育支援者のうち、事務職員は、主に学生課教務係に配置され、様々な教育支援業務を、教員との協働により効率的に遂行できる体制が整えられている。同じく技術職員については、新たに技術室を立ち上げ、職員間の連携を強化することで、全学の教育活動に対して組織的な技術的支援が可能となっている。

